

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	晨起：文苑
Author(s)	黒本，稼堂
Citation	龍南會雜誌， 2 5： 4 3 - 4 5
Issue date	1894-03-31
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/4375
Right	

逐奴僕然。使帝能知道眞之賢。則上皇之所属。名望之所歸。雖有百時平。安能問之乎。由是觀之。帝之用道眞。非眞用之也。實不知之也。嗚呼。使帝深知道眞而用之。事任之而不疑。則延喜之治。貽謀子孫。豈止於此乎。以帝之明識。尙如此。況於暗君庸主乎。故曰。用人之難。有不可言者焉。而知人爲尤難矣。雖然。營公之可用。而時平之不可用。今而觀之。蹇兒亦知之。在當時。則雖大人君子。蓋亦有不知之者。故觀其跡於後。則忠姦邪正。可歷歷而指也。察其心於當日。則有未可遽辨者焉。用人之難如此。後之爲君者。可不戒哉。

晨 起

上

黒本 稼 堂

人の銳氣。一身にまぢりて。寸隙もなき時は。朝アサよりけり。兵書に。朝氣は銳し。といへるも。げにさることなり。故に朝の務だに行はゞ。一日の業も。殊の外。はかしく。何事をもとりこせば。心の長閑あることは。いつも春の日のうららかなるかとし。さるを。この時に怠たらむ人は。一日の業。つぎぐにありゆくまゝに。一年三百六十餘日のまじも。皆後をがちにあれば。心のせはしきことは。つねに冬の日のせむるか。とくなるへし。しかはゆれど。その起くる時よ。いかに。ものうし。といへば。勇者あらでは。なりかたき。とぞ覺ゆる。雨のしめやか。ふりたる春の朝。霜のいとしろうねける冬の曉。とは。殊に堪へがさくや。あらむ。されども。之を刈カリ薦コモのみだれの苦しきに比へず。何事かあらむ。これにしも。堪へん人の少きさは。世に勇者の多からざるなるへし。人にして。勇あくば。志あり

ども。何の業をか遂けむ。まして。その日の務をや。古の賢き人のツトメといふ詞を。務もじにあてられしは。いともく。滋味ふかし。ツトメは。夙目^{ソツメ}は意あり。夙^{ソツ}にどく目を覺して。一日の計をみたつるが。人の務とあり。故に晨起^{ハヤオキ}する人にして。吾常に務に怠たる。といふども。吾これを信せず。朝寢^{アサイ}する者にして。吾能く務に勵む。といふども。誰かはこれを信すべき。うの人。もと勇なければあり。故に。勇者ならでは。なりがたしといふ。昔。肥後の井澤蟠竜といひしは。武術に達し。學は和漢を兼ねし人なりし。この人。朝は。夜の明けぬうちに。起出で。湯をわかま。髪をあらひ。身をようひ。さて後。僕^{ヤッコ}を起し。門を明けさせけり。故に。朝何時その人を訪ふども。威儀^{モウギ}のみだれしを。見たることおかりさどぞ。勇者のふるまひ。かくこそありけむ。我か先人も。晨起する人にて。おはしけり。その話に。余十九歳の時。父君に別れけるが。いつも父君の朝まだきに起きて。煙管^{キセル}の音たてられけるをきけば。身もふるふ斗にたきけり。さらでは。父君のけしき。ひねもす。あしかりし。といはれき。斯る人に養はれ給ひし故にやありけむ。朝起極めて早く。いつも下仕^{シモツカヘ}の女に先たちて。飯^{イヒ}をたき給ひまかば。一家ころりて。晨起の風。行はれしも。うの銳氣に化せしありけり。それ銳氣の朝日と共にたちのぼる。武士の戦場に臨むかごとし。うの鋒^{サキ}するどくして。常るへからず。その業のはかしく。歳の暮に至りても。万事のどやかあらむは。宜^{ツキ}にざりける。吾。聊。身に覺えあれば。人にもとてなむ。

下

晨起は。只。人の務あるのみにほらず。養生のためにも。いとよからんは。人のしる所あるべし。はた。物を考ふるにも。常よりは。考へえやすからんは。いづこも。物靜にして。心の鏡に。塵もふらず。氣の水も。すみわたれるあるべし。殊に。良心のよくしらるゝは。この時にぞありける。孟子の詞よりへ

らく。平旦の氣をみるに。あしき人も。さすかに。よき人には。遠からず。只晝にあれば。見るもの。聞くものにつけて。物欲のてぐつよまつはりて。夜のまに。養ひし。良心も。いつしか。その身をはあれて。終には。禽獸に近つくなりどぞ。げにも。良心をみるは。あしたにころほき。まかるを。夜は。いつまでも。火ともして。油の費ゆることも。思はず。身の傷なふことなをも。顧みず。ろろ言ひひのふしりて。さて。朝は。日のたくるまで。うつゝなく。熟睡^{シュイ}して。起くれば。やがて。世のもだし難きに從ひて。とやせん。かくやすへき。と氣を狂はし。良心のありかをたにしらず。人の寝ぬへき時に。起ゐて。起くへき時に。夢路をたどるあと。とかく朝夕をかへて。その世を終ふるもの。多かり。おれらは。眞に醉生夢死ともいふへきにや。世の中の人。返すくも。つとめて起き。よくろの生を痕ひ。よくろの心を求むべし。物を考かへ。智を長せしむるも。あしたにあり。物欲のいさみありとも。良心のその身を去らざるやう。あらしおかんも。あしたにあり。くれよもあらじひるにもあらじ。

奉祝 大婚二十五年盛典

隈本 繁吉

五大洲裡秀麗氣。凝成葦原瑞穗^州。山出醴泉流漾々。地產靈芝綠油々。奉戴 万世一系帝。仁漸義摩三千秋。乃聖乃神王政新。允武允文綱紀振。放勳光被四表外。昭明時雍

率土濱。恭值 大婚五々典。方在花紅柳綠春。熙載冠蓋自習々。子來蒸徒悉莘々。禁闕巖々鸞鳳舞。野林參差燕雀馴。慶雲叢處歡聲沸。甘雨降邊頌歌頻。於戲日月並懸乾坤鮮。菊花桐葉契堯天。帥^帥微臣仰盛事。遙祈天長地久岡極年。